

三重大学 人文学部

法律経済学科

「協同組合論」

特殊
講義



服部 弘／三重県漁業協同組合連合会常務理事

漁業と協同組合

第9回（12月5日）：受講47名（受講生42名・聴講&スタッフ5名）

漁協は、水産業協同組合法と漁業法に基づき経済事業を行い、漁業生産力の向上に努めている。漁業には様々な漁法があり三重県沿岸でも地域によって様々な漁業がおこなわれている。豊かな海と資源を守るための環境保全や「浜の活力再生プラン」、新規就業者の育成支援「漁師塾」も県内で広がっている。漁業への消費者の理解と、協同組合運動をひろげていくことが大事である。

【講義の主なポイント】

- ・ 漁業協同組合（以下、漁協）には、水産業協同組合法に基づく経済事業と、漁業法に基づく漁場管理という2つの性格を有する。また、JAや森林組合、生協との協同組合間協同による活動をすすめている。
- ・ 漁業権とは、漁業法第10条に基づき知事の免許を受けて一定の水面において排他的に特定の漁業を営む権利である。三重県の漁業は、伊勢湾・鳥羽志摩・熊野灘地区それぞれに違いがある。
- ・ 漁協の取り組みの一つは、新規漁業就業者の育成確保であり、そのために「漁師塾」が県内6地区で開設されている。また、社会・環境活動にも取り組んでいる。
- ・ 「浜の活力再生プラン」は、5年間で漁業所得を10%以上向上させる取組みで、収入向上として「資源管理しながら生産量を増やす」「魚価向上や高付加価値化を図る」「商品を積極的に市場に出していく」、コスト削減として「省燃油活動、省エネ機器導入」「協業化による経営合理化」などがすすめられている。
- ・ 水産業や漁村の多面的機能として豊かな自然環境の形成や、海の安全・安心の提供（巨大な監視ネットワークの形成）、やすらぎ空間の提供がある。
- ・ 養殖業者グループによる新しい生産・販売モデルの構築をすすめてきた。マダイは三重県の魚類養殖生産量8900トンの約4割を占めている。以前は零細な経営体ばかりで主要産地との販売競争では不利で安定した販路を確保できず不安定な経営であったが、「伊勢まだい」のブランド化をきっかけに経営の安定化を考える土台となった。
- ・ 漁場環境の悪化や取扱高の減少等の影響で漁業や漁協は大変厳しい時代を迎えている。漁業への理解と協同組合運動をひろげていくことが必要である。

第9回講義…受講生の感想レポート（一部抜粋）

Aさん（2年生）

漁協なので漁業をするというイメージはあったが、一見すると関係がなさそうでは
森林組合や農協とも協働していると知って驚いた。様々な組合と協同
することで、「経済的社会的地位の向上と水産物の生産力の増進とを図り、
国民経済の発展を期する」という目的が果たされるので良いことだと感じた。
私は魚よりも肉を食べるほうが多いけれど、水産物には多くの
栄養が含まれており、健康効果が高いことを知ったので今後は積極的に
摂取していきたい。

消費者とコミュニケーションをとる取組によって生産者と消費者の互いに顔が
みえる関係づくりをすることで、消費者はより水産物を購入したいという
気持ちが高まり、漁協も消費者視点の生産ができて、どちらの立場にも
良い効果を生み出すことができると考えられる。

Bさん（3年生）

三重県は有数の漁業産業が盛んな地域であり、高級な魚貝類（青のり、
あわび、はまぐり、伊勢エビ、サザナギ）がたくさん獲ることができ、
漁業を収入として生活している人にとって、漁業権は大切なものであり、
侵害した場合には適正な処罰がなされるべきだと感じました。

「海の活力再生プラン」では5年間で10%水揚げ量を増やすことを目標に
漁業だけでなく地域も含め、再生していく考えを知ることができました。

私は志摩市の出身なので、魚や貝類、のりなど普段から身近なものであり、
ある意味、「本当の美味しさ」を分かっているのではなかと自分では考えます。

県外の友達で志摩に来てくれた時は、美味しい海のもの食べてもらい、
土産にも、志摩のひものなど持って帰ってもらうようにしています。

小さいことがうれしかったです。志摩（三重県）の海産物のPRとこれから続けたいです。

地元にも、水産高校という学校があります。学校でブランド化をして、缶詰や、カレーのルー
などの加工食品を出しています。このような、企画を応援してあげること、一つなので

はなかなか深く考えました。お肉も大事ですが、お魚も大切な存在であることを

これから先、私たちが下世代に受け継がれる人に向けてもやりたいです。

Cさん(2年生)

領域に於いて漁業権、知事許可、大臣許可、と権利元が
違うことを初めに知った。使用する道具までも細かく決まっ
ていた。また、漁業という、その外はやらなくていいか
森林組合との森林整備、地域の活性化に向けて活動もして
いる以上幅広いことをしている。

島国である日本では、国境が地面に接し、漁業が他国の不審な
船が来ないか、(と)警戒する役目も担っているを知った。職業の
多面性を感じた。

Dさん(3年生)

漁業は、知ることあまりなじみのない世界で、今回初めて知ったことが多くありました。漁業は
農業よりも資源管理の必要性が高く、漁業権の規定により、その他漁業従事者の権利を
侵害しないようにし、許可制をとっているところに特徴があると思いました。

全体としての漁業従事者は、高齢化の影響を受けているものの新規の従事者は一定数
確保しているのは意外でした。新規の育成に力を入れていることが影響を与えているのかなと感じました。

漁業と関わり、水産物を通じて消費者に供給する役割はイメージできませんでしたが、
漁業によって環境保全を行ったり、災害救助や国境の監視の役割を担っています。
海の産業であるという特徴から、その役割も幅広く、漁業を守る重要性は私か思っていた
よりもずっと大きいものでした。

漁業はその資源に限りがあったり、環境や他国の影響を受けやすいことから、
「消費者に喜んでもらえるような供給」と、漁業従事者の安定した収入をバランスよく実現するの
が困難になりやすいのかなと感じました。品質向上や研究先の確保を、様々な調査を通じて
実現させた事例のように、組合のような組織にしかできないことが重要な点だと思います。
(伊勢まてい)

Eさん(2年生)

漁師塾という取組をはじめたのですが、平成18年には若者がほとんどいなかったのに平成30年には半数以上が40代以下にまで若返りを果たしていることに驚きました。「やりがい」と思ってもなかなか難しいと感じる漁業ですが、しっかりと経験できる・学ぶ場が提供されているのはすごくいいなと思いました。

漁業が自然環境の保全や国境の監視、海難救助など自然や私たちの命や日常生活に関わる機能をもっていることは知りませんでした。改めて漁業の大切さを感じる反面、現在漁業、そして漁協の置かれている状況がいかに厳しいかをきいて自分には関係がなかにと割り切らず考えていかなくてはいけないなと感じました。

まずは骨をこらして面倒がらず積極的に魚を食べていきたいです

Fさん(2年生)

貿易の平衡入金額に比べて平衡出金額の割合がとて小さいと感じたし、漁業就業者の高齢化により、漁業就業者数が年々減っていることが問題であると感じた。しかし、早田漁師塾などを開設することにより、実際に若者の漁業への就業を促進させていたり、漁の活力再生プランの取組により、実際に漁業所得向上を達成したりしているという点だから、この点同様に改善に向かっていると嬉しいと感じたし、私達も、漁業を理解し、水産物の良さを広めていくことが求められているのではなかと感じた。

Gさん(4年生)

三重県では県内の人口格差が顕著しく、特に南西部地域の人口減少には深刻な課題と認識しているが、漁師塾の取組により、漁業新規就業者が増え、地域が活性化に繋がるといいなと思った。

美味しく栄養もある魚を普段から何気なく食べていたが、仲間同組合において社会・環境活動に至るまで幅広く漁業を守る活動をしていることがよく分かった。